

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100101		
法人名	有限会社 介護センターみつわ		
事業所名	グループホームみつわ		
所在地	三重県南牟婁郡御浜町志原1698-50		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町提出日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvosvoCd=2473100101-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみつわが「家庭の延長線上にある」と考えており、アットホームで居心地の良い空間づくりを心掛けております。
理念でもある「笑顔・ふれあい・思いやり」を忘れずに利用者の意見・気持ちを尊重し、あたたかい心のケア・その人らしい生活をしていただけるよう日々努力しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

御浜町北部の海岸にほど近い住宅地にある事業所は平成16年に民間の部品工場であった建物をリフォームして開設されたものである。現在2ユニットで入居者は16人、事業所の理念通りに「笑顔でふれあい、思いやり」を持った支援が行われている。またこれとは別に玄関すぐの事務室正面に「自由な発想」「気ままな生活を」という2枚の扁額が掲げられており、グループホームの基本的な理念に沿った事業所の姿勢が窺える。職員は入れ替わりが少なく地域の実情などをよく知るベテラン揃いで、これらのことも利用者及び家族の安心のひとつである。今後は更に地域住民等との交流を深め今以上の地域密着を目指そうとする事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・ふれあい・思いやり」を理念とし、朝礼時・月1度のカンファレンスに職員全員で確認し、ケア実践に取り組んでいる	事業所理念は「笑顔、ふれあい、思いやり」と職員と利用者の良い関係を表すものとなっている。以前はもっと長い文章で構成されていたが、より分かり易く具体的にという思いで4年前に職員全員で決めたものである。この言葉を念頭に置いて日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方に協力を依頼している。近所の方の理解も得ている。気さくに声をかけてくれたり、畑で収穫した野菜など持ってきてくれる	自治会に入会しており近くの溝掃除や道路わきの草むしりなどの作業の他、事業所の敷地内に地区のごみ集積所を設置するなど地域の一員としての役割を果たしている。しかし、事業所の周りは工務店などの作業所が多く隣人同士としての交流はさほど多くない。	これまでも地域の一員として声掛けを行っており、特に認知症カフェ的に事業所への誘いを行っているが目に見える成果は出ていない。運営審議会メンバーとも相談していわゆる近所の人レベルでの交流を深めるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花見や散歩時に地域の方々と会話する等交流を持ち理解していただけるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度 地域包括支援センター職員、民生委員、老人クラブ等の参加で開催し、様々な意見・助言を参考にしながら、サービス向上に取り組んでいる	運営推進会議は年6回、奇数月に開催されている。参加者は包括支援センターや民生委員、老人会メンバーなど多彩で、事業所からの報告に様々な立場から意見が出されている。また時には事業所の中を見てもらうなど活発で実のある会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会、地域包括支援センターが行う研修等に参加している。運営推進会議に参加してくれる担当者との連携を中心に協力関係を築いている	役場本庁へは車で10分、介護保険を所管する広域連合へは15分の近さであるが、普段の疑問や相談には包括支援センターを訪ねることが多い。また包括支援センターは職員研修を主催してくれたり、地域住民を対象にした事業所の報告会を頼まれるなど関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行い理解を深め「身体拘束をしないケア」に努めている。カンファレンス時にも勉強会を開催し毎回話し合っている	10年ほど前に身体拘束防止対応指針を作成しており、これに基づいて職員の教育を行っている。特に決まった日程はないが何かあれば朝礼などで取り上げたり、毎月のケア会議で議題にして常に気を配っている。言葉での拘束については、そういう状況を作らない努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、意見を出し合い、研修等があれば積極的に参加し虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を基に勉強会等で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に十分説明してから同意書にサイン・押印していただいている。不安・疑問・希望等確認し計画書に作成に反映している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に利用者の近況を毎月手紙にて報告している。質問等は面会時や電話対応時に担当者が対応している。要望・意見は申し送り・カンファレンス時に報告・把握している	家族との会話は電話を中心に積極的に行っている。特に利用者一人ひとりの日々の出来事を手紙にして毎月の請求書に同封して送っており、これに対する意見などが会話のきっかけになる場合もあって機会の見出しに努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや毎月のカンファレンスで職員の意見を聞いている。職員が毎月テーマを決め、勉強会を開いている	職員会議は毎月のケア会議の他に様々な機会を捉えて形にこだわらず行われている。特に朝礼では前日の出来事を改めて話し合い、この中からケアの改善点や利用者個々の注意点、施設や運営に対する意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員を把握し、得意分野を活かし、苦手な分野は改善できるよう助言しあいながら常に向上心を持ちながら働ける職場・環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修の案内が来た時は職員に伝達し、参加希望の職員は積極的に参加し、学んだことを他の職員にも伝えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加する等、同業者との交流する機会が多いので、お互い情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者へのアセスメントを確実にし、話を傾聴し、安心して生活していただけるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、不安点・要望等を確認し、計画書の作成に反映している。面会時・電話時にも職員と話しやすく相談しやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話を聞きながら的確にニーズを見極め、対応できるよう職員は意識している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちに寄り添い、一方的な働きかけではなく、思いを気軽に伝えていただけるような関係を築いている。できる事は利用者と共に行動しよう意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員から家族に利用者の生活状況等の近況報告を手紙で行っている。気になる場合は電話連絡等で対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会も多い。家族の協力を得て外出時に馴染みの場所に連れて行ってもらうたり、人との関係が途切れないよう対応している	利用者は全員地元で生まれ育っており、近くのスーパーやコンビニが馴染みの場所であることから機会を見つけては買い物に出掛けている。また利用者から会いたい人の情報を訊いてその人や関係者に声掛けをするなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理な働きかけはせず、本人の気持ちを尊重しながらレクリエーション・行事・食事等、日々の生活を通し利用者同士が関われる支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事等あればいつでも連絡いただけるよう退所時に家族に声かけしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しをよく聞き把握し、支援に反映するよう努めている。カンファレンス等の話し合いの場面で情報を職員間で共有している	殆どの利用者が言葉での意思疎通が可能である。しかし言外の仕草や態度で判断することも多く、これらの情報を職員全員で共有して支援に努めている。とにかくどんなことでも傾聴することを心掛けており、利用者本位となるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の話をよく聞き把握して作成したアセスメントを通し職員全員が把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子・状態・変化等を記録し、申し送り、個々の現状を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を確認しながら、計画作成担当者・正担当・副担当を中心に計画書を作成している。モニタリング会議・カンファレンス時に意見交換にてケアの見直しを行っている	入居時最初の計画は1カ月を期間とし、その後ケアマネージャーや担当者等によるモニタリングを経て3カ月を単位として更新している。カンファレンスには職員全員の他、関係の社協職員にも加わって貰いそれぞれの意見を反映している。また家族には電話や面会時に説明し適宜意見を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録している個別の記録を全員が把握し、職員間で共有・情報交換しながらより良いケアができるよう話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時等、遠方の家族が急に駆けつけられない時は、必要に応じて対応する等、可能な限り柔軟な支援ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方等に協力を依頼し、利用者に関わってもらい楽しんでもらう機会を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回医師が往診してくれている。本人・家族の希望で専門医を受診する場合もある	協力医は近所の開業医であるが毎月の訪問診療の他、時間外の診療にも対応してもらっている。また近隣市町の大きな病院にも受け入れて貰っている他、職員による専門科への対応などは利用者及び家族の安心の元となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在 訪問看護は利用していないが、以前は気軽に相談できる関係づくりをしていた。往診の医師・看護師との連携は取れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室のスタッフと入院・退院時の受入など、随時情報交換・相談できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最後までここで見てほしいという家族はいるので、重度化にむけた支援については随時対応していきたい	現状として医療行為が出来ないことから看取りは行っていない。しかしケースバイケースであるもののギリギリのところまでは対応することとしており、その時になれば家族を交えて改めて最善の方策を考えていくこととしている。なお職員には3～4カ月ごとに救命措置等を中心に研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成。AEDの設置。年数回消防署職員の指導の下、救急法の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し避難訓練を行い、避難マニュアルにより利用者を誘導する訓練を行っている(夜間を想定しての訓練も同時に行う)	最も危惧される災害は津波であるが、行政によるハザードマップに基づいて車で5分足らずの町の健康保険センターに避難することとしている。事業所としては年4回、消防の立会いの下避難や防災をテーマとして訓練を行っている。その他、ヘルメットや担架などの機材も確保しており事業所としての災害対策意識は強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格等を見極め、職員間で話し合いながら、声かけや対応に十分注意しながら行っている	利用者へは堅苦しい言い方ではなく親しみを込めてその人に合った呼び掛けを心掛けている。また職員教育を徹底しており、特に個人情報の保護については年2回のボーナス時に改めて誓約書を読み上げるなど常に意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の返答能力に応じた質問方法等で、思いや希望を聞き出すよう心掛けている。時には居室に訪問し、1対1で話を聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、気分・体調等を考慮しつつ様子を見ながら希望に沿った支援をするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は助言しながら自分で選んでもらい、カットも2か月に1度美容師さんが来てくれるので、本人が希望する場合はカットしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを手伝ってもらったり、畑の野菜と一緒に収穫してもらいメニューの材料にする等工夫している。後片付けも一緒に行える方はしてもらっている。オープンランチ・鍋大会等 食事を楽しくもらえるよう工夫している	食事は職員の中で責任者を設け、その指示のもと全員で手作りしている。また利用者もある程度の手伝いをしており、下膳の後の洗い物などはさながら家庭にいた時の姿を思わせる。誕生日会などの特別な日には利用者からのリクエストを聞き、外でのオープンランチをするなど食事を楽しめる工夫が見える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態・量を把握し、食事・水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔ケアチェック表を作成し、毎食後声かけにて行ってもらい、できない人は介助しながら口腔内が清潔に保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導支援をしている。おむつも利用者もいるが、できるだけ排泄はトイレでと支援している	完全に自立している利用者は僅かで殆どが何らかの介助を必要としている。そんな中、出来る限りトイレでの排泄を目指して管理表に基づくほか、利用者個人個人の排泄の周期やクセなどを充分把握しながら出来る限りの自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄記録を活用し、水分をこまめに摂っていただいたり、適度な運動をする等支援している。便秘が続く場合は医師の指示のもと服薬によるコントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴時間には幅を持たせてなるべく好きな時間帯に入浴できるよう支援している。拒否の場合は、本人が希望する日に入浴できるよう臨機応変に対応している	入浴は週2～3回、午前午後を問わずに実施しており、基本的に個室で場合によってはリフトも利用しながら職員1名で対応している。一人20～30分を目標にゆっくり楽しんで貰うこととしており、職員との会話も弾む時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣も把握しており、状況に応じて対応するようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員理解し支援している。薬剤師との連携も取れておりいつでも相談できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を把握し、できる事等も見極め、職員と一緒に楽しんで生活していただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺を職員と一緒に散歩したり、花見・オープンランチ等楽しんでいただいている。家族の協力を得て外出機会も作っている	日常的に外に出る機会は近所への散歩や事業所の畑での草むしり等である。利用者が特に外出を希望する場合は家族の対応に任せているが、職員も通院などで外に出る機会には臨機応変にミニドライブなどをすることもあり、総じて利用者の思いに応える支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理している。個々の能力に応じ家族の同意のもと本人が所持し、通院時に売店等で買い物をされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己の携帯電話を所持している方が増えている。家族・知人から電話がある場合、本人に電話をつないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや利用者が作った作品を展示したり、各行事の写真をフロアに掲示しており、利用者・家族に喜ばれている	建物自体は以前機械部品工場であったものをリフォームしたものであるが間仕切りなどに工夫が見られる。玄関正面の事務室を挟んで各ユニットを配置し、それぞれの居室の周りを廊下が巡るなど機能的である。リビング兼食堂は明るく、冷暖房機や加湿器などを利用して快適な空間となるよう努力されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、共有空間で過ごされる方が多いので、ソファや椅子の配置に気を配りながら、過ごしやすい居場所づくりの工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に自宅で使い慣れた物を持ってきてほしいとお願いしており、個々の希望の物を持ってきてもらっている	居室の広さは6畳より少し広く造られており、身の回りの調度などを運び込んで利用者の使い勝手のままに設置されている。掃除は職員と利用者が一緒になって行っているが、年1回リビングなどと併せて専門業者による清掃を実施しており常に清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置・段差をなくす等、個々の身体能力にあわせ職員間で意見を出し合い、注意・工夫している。トイレの位置等もわかりやすいよう張り紙を貼る工夫をしている		